

小生の誕生の地は、多摩丘陵の谷間にできた村落で、現在の町田市小野路町ある。

小野路は鎌倉上の道や大山街道の宿場町であり、明治までは6軒の宿屋が軒を連ねていたそうです。中心は小島資料館で、江戸時代は環八州の役人の常宿でもあり、当主が新撰組の近藤と義兄弟でもあった事から多くの資料が展示されています。又小島家は明治に入り近在の34ヶ村の総代名主となり、地区には登記所・裁判所・郵便局等と、多摩地区の中心地でもありました。小野路の小野は小野篁の六代孫の小野孝泰が国府(府中)の国司となり、この地を領した事に由来するらしい。村落をグルリト取り巻く山波は、小生が真竹の刀を腰にぶら下げて走り廻って遊んだ所でもある。そんな時代から60年もの歳月が過ぎ、周囲の地はブルドーザーで削り取られ当時の面影すらない。昔を忍んで故郷万歩を寝起きに決め込んだ。紅葉に燃える万松寺さんから万松寺谷戸 城山 台 浅間山 一本杉 関屋 鎌倉上の道と尾根を一周することにした。

小野神社横の細い道に入り、知合の庭先に車を置いてスタートである。万松寺は明治の初め、どこよりも早い時期に小野学校が置かれ、近在の青年の養成所でもあった。因みに我が家の菩提寺でもある。田圃の畦道を僅か進んで、桐や檜の林に入る。当時は急な道であった事が頭を過ぎったが、15分ほどで尾根道に出る事ができ、そのすぐ上に小さな祠が祭られている小野路城跡である。

この城は、武蔵七党の横山氏とか小山田氏のものと言われているが定かでない。

山頂から5分程下った所に、僅かに滴り落ちる湧水があり、小町井戸(小野小町?)と云うとある。

尾根道を10分程進むと台村落への道を分け、直ぐ上にベンチが準備された展望台である。

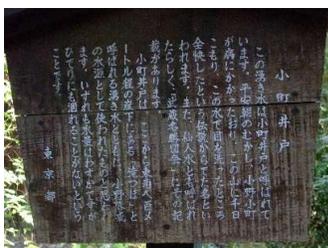
かって、相模湾まで見えたと聞くが今日は、町田が限界である。尾根道には白いノギク・赤いぼろ菊そして畑にはサザンカも咲き黄色い桐の黄葉を引き立てる。クランク条に曲がるコースの近くに1軒のみ

ある家で、老婆が庭仕事をしていたので道を尋ねると、懐かしい小野路弁で浅間さまはその先の二股を右に行くようにと教えられた。10分程で浅間神社である。この地では丹沢や道志山塊により、チョピリしか富士が望めないことから貴重な富士山ポイントでもある。この地に富士山を敬い祭られたらしい。さらに10分程で先程の宿場町から多摩センターへと繋がる都道である。嘗ては、堂場池と言う用水があったので、近くに住む人に尋ねたら、もう埋めたてられて後かたもありませんよとのこと。

Uターンしてヨコヤマ道を一本杉公園に向かう。近くに老齢の人が居られたので「この辺に陸軍の高射砲の陣地があって、その後米軍の無線中継場になった場所をご存じかと尋ねると。「削り取られてマンションが建っているあたりだよ」と教えてくれた。一本杉公園から大山街道を横切り、鎌倉上の道に入る。赤土で滑る下り道を馬ならぬバイクで80歳程のおじい様が来たのには驚いた。昔の面影を残した道には、落葉にどんぐりも加わり滑る。更に道を進と、辻の地藏様である。乳飲み子を抱いた柔らかいお顔に、心が和んだ。目の先が関所の置かれたと云う関屋である。

ここは宇田街道との分岐でもある。近藤勇等が通った道ともある。小学4年生の時に先生と歩いた鎌倉道である尾根道を現在の小野路霊園のある地まで進み、一般道へ出た。記憶より遙に狭い道を1週2時間45分(12000歩)、童心に戻っての周遊万歩でした。(h25.11.15)

小町井戸の標識



鎌倉上の道



宿場風景

